

	学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
(1) 様 々 な 地 図 と 地 理 的 技 能	地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有効性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。 ア 地理情報と地図 地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる。 イ 地図の活用と地域調査 直接的に調査できる地域の地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。	〔位置、方位、時差〕 - 地球上の任意の地点の緯度・経度を基にして、対蹠点の位置や他の地点との位置関係（南北及び東西）を考えて、時差を求めることができる。 〔地球儀、世界地図〕 - 古代バビロニア・古代ギリシア・中世ヨーロッパ・大航海時代以降の世界図を作成された順に並べることができる。 - メルカトル図法で作成された世界地図において任意の2地点を結ぶ直線が2点間の等角航路を示すことを理解し、最短距離となる大圏航路を求めるためには正距方位図法等を必要とすることを理解する。 - 分布を示す統計地図を基にして、地域の特異性を説明できる。 〔地形図の読み方〕 - 地形図において、等高線間隔から縮尺を読み取り、実際の距離を求めることができる。 - 地形図を基に、土地利用や集落の位置から地形と人間生活の関わりを説明できる。 - 同じ地域を描いた発行年の異なる地形図を比較し、地図記号等を読み取って、地域の変容を考察することができる。 〔地域調査〕 - 生活圏の課題を設定し、地形図の読図や文献資料の精読を行い、その上で現地での観察、見学、聞き取りなどの調査活動を行うことができる。 - 調査結果を分析し、まとめ、適切な図表や主題図などを用いて表現し、発表することができる。

	学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
(2) 現代 世界 の 系 統 地 理 的 考 察	世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。 ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活などのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。 イ 資源、産業 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。	〔自然環境と人間生活〕 ・ 大山脈や弧状列島、海溝、海嶺の分布を、プレートテクトニクス理論におけるプレート境界と関連付けて説明できる。 ・ 世界や日本の主な地形について、その成因や人間生活との関わりを説明できる。 ・ 平均気温や気温の年較差の水平的分布の特徴を、緯度、水陸分布、海流などの気候因子と関連付けて説明できる。 ・ ケッペンの気候区分の概要や世界の植生の概要を大気の大循環の仕組みと関連付けながら説明できる。 ・ 様々な地球環境問題について、問題の成因を考察し、現状を理解する。例えば、サヘル地域の砂漠化の原因として、過放牧や薪炭材の伐採という人為的な問題があることを理解する。 〔農林水産業〕 ・ 世界の農業地域区分は、自給的農業が主にアジア・アフリカ、商業的農業がヨーロッパ、企業的農業が新大陸に分布することと、その要因について説明できる。 ・ 主要な農林水産物について、例えば、国際商品としての小麦を、主な生産国、輸出入国、貿易量を米などと比較したり、小麦カレンダーを用いたりして、その特徴を説明できる。 〔工業〕 ・ 工業をその性質から原料、市場、労働力、集積、交通の五つの立地指向型に分類して説明できる。 ・ 新興工業国が台頭した背景には、安い人件費と豊富な労働力、積極的な外国からの資本技術の導入があったことを理解するとともに、世界の主な工業地域の課題について理解する。

学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
ウ 人口、都市・村落 世界の人口、都市・村落に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。 エ 生活文化、民族・宗教 世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。	〔流通・消費〕 - 世界の交通・通信の発達と関連付けて貿易、商業、観光の変化やその課題について理解する。 〔資源・エネルギー、食料問題〕 - 世界のエネルギー資源や鉱産統資源の偏在性を捉え、日本における石油備蓄の必要性とともに、世界の資源・エネルギー問題の動向とその解決に向けた動きについて理解する。 - 発展途上国の食料不足の主要因とその解決に向けた動きについて説明できる。 〔人口、都市・村落〕 - 人口ピラミッドの形状から、国や地域が人口転換のどの段階に当たるかを判別できる。また、国際的な人口移動の近年の動向と課題について理解する。 - 発展途上国における都市人口率の高まりと居住・都市問題の発生について説明できる。 - 先進国の少子高齢化の特徴を理解し、今後起こりうる課題や出生率が上昇した事例を説明できる。 - 都市問題の解決に向けて、都市計画や都市の再開発が行われていることを理解する。 〔生活文化、宗教・民族と人間生活〕 - 世界の生活文化について、地域差が縮小したり、画一化したりしているなどの、近年の変化を説明できる。 - 世界各地の宗教の分布と民族の関係をおおまかに説明できる。 - 中東地域におけるパレスティナ問題のように、宗教や民族の違いに基づく対立の解消は容易ではないことを理解する。 〔領土問題〕 - 大陸棚の開発によって、資源の占有権をめぐる問題が発生することを説明できる。 - 自然的国境や人為的国境の特徴と具体的な例を挙げることができる。また、日本固有の領土である北方領土

	学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
(3) 現代世界の地誌的考察	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。 ア 現代世界の地域区分 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の疑念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気付かせる。 イ 現代世界の諸地域 現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身に付けさせる。	問題と竹島、尖閣諸島の近年の動向と我が国の主張の正当性について歴史的経緯を踏まえて説明できる。 〔世界の地域区分〕 ・地域区分の方法として、大陸や州、気候帯等の自然環境、政治や経済、文化等の社会環境など、様々な指標により地域区分できることを理解する。 ・例えば、文化による地域区分では、ユーラシア大陸をヨーロッパとロシア、アジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分し、各地域の共通性や関連性を説明できる。 ・例えば、文化による地域区分では、アフリカを民族的、文化的な相違から北アフリカと中南アフリカに区分して考えることの必要性を説明できる。 ・例えば、文化による地域区分では、文化的な相違から、アメリカをアングロアメリカとラテンアメリカに、オセアニアを、オーストラリア大陸、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分して考えることの必要性を説明できる。 〔世界の諸地域、東アジア〕 ・例えば、中国の人口問題について説明することができる。また、民族問題について、いくつかの具体例を挙げて説明することができる。 ・例えば、近年の中国の経済発展と社会の変化を、改革開放政策導入以来の国際環境の変化や歴史的経緯を踏まえて理解するとともに、経済的地域間格差や環境問題について説明できる。 ・例えば、韓国と北朝鮮の現状を理解した上で、日本との交流の在り方について考えることが重要であることを理解する。

学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
	〔世界の諸地域、東南アジア〕 ・例えば、東南アジアでは民族・宗教的な問題とその解決に向けた取組について、いくつかの具体例を挙げて説明できる。 ・例えば、東南アジアでは近年、品質管理や流通の進歩により日本など海外に向けた農産物・水産物の輸出が盛んになってきていることを理解する。 ・例えば、近年はASEANのみならず、アジア太平洋経済協力会議（APEC）や環太平洋経済連携協定（TPP）など日本やその他の国々と多層的な経済関係の構築に取り組んでいることをその必要性も含めて理解する。 〔世界の諸地域、南アジア〕 ・例えば、植民地支配の影響等でカシミール問題やマクマホンラインなどの領土問題が存在することや、スリランカにおける民族紛争などについて理解する。 ・例えば、インドの人口増加とその社会的背景、居住・都市問題について理解する。また近年の新しい文化や価値観が受け入れられている社会の動向を理解する。 ・例えば、インドでは工業化が進み、さらにIT産業を主力産業として経済発展していることを説明できる。 〔世界の諸地域、西アジア・中央アジア・北アフリカ〕 ・例えば、中央アジアはシルクロードの中継点として多くのオアシス都市が発達し、その交易で多くの利益を生み出してきたことを理解する。 ・例えば、OPEC以外の国の産油量の増大などOPECの相対的地位の低下などの近年の石油情勢を理解し、それが日本に与える影響について理解する。 ・例えば、この地域で政変や地域紛争がたびたび起こる原因や近年の政変や地域紛争の動向について理解する。 〔世界の諸地域、中南アフリカ〕 ・例えば、アフリカの経済発展を阻む要因の一つである民族対立が、列強による植民地分割を背景にもつことを、複数の事例を含めて理解する。

学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
	・例えば、モノカルチャー経済からの脱却に向けて、様々な取組がなされていること理解する。 ・例えば、南アフリカの抱える国内の経済的格差や居住・都市問題について理解する。 〔世界の諸地域、ヨーロッパ〕 ・例えば、EUという経済的、政治的統合について、時系列的に説明できるとともに、加盟国の経済的格差等、EUが直面する課題を説明できる。 ・例えば、ヨーロッパの東西南北それぞれにおいて見られる多様性について、民族・宗教・衣食住などから、2～3の事例を挙げて説明できる。 ・例えば、ヨーロッパの工業地域の立地類型を説明できる。また、近年の工業の中心地域の移動や変化を、その背景とともに説明できる。 〔世界の諸地域、ロシアとその周辺諸国〕 ・例えば、ロシアの国土について、面積や自然環境を、カナダと比較をしながら説明できる。 ・例えば、ロシアが抱える国内あるいは隣国との民族問題について、1～2の事例を挙げて説明できる。 ・例えば、ソ連崩壊から現在に至るまでのロシアの経済状況の変化について、歴史的背景とともに説明できる。 〔世界の諸地域、アングロアメリカ〕 ・例えば、アメリカの農業が、気候環境を基にして、適地適作と呼ばれる農業地域に分化していることを説明できる。 ・例えば、アメリカの鉱工業の地域的変容について、シリコンバレーやサンベルトなどの事例を踏まえて理解する。 ・例えば、アメリカのラティーノや黒人などのマイノリティの問題を踏まえ、多様な文化を尊重しながら調和した社会を築くことの重要性について理解する。

学習指導要領	都立新宿高校 学カスタンダード
ウ 現代世界と日本 現代世界における日本の国土の特色について、多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。	〔世界の諸地域、ラテンアメリカ〕 - 例えば、ラテンアメリカの国々の多様な人種、民族構成について、歴史的背景を踏まえて説明できる。 - 例えば、ラテンアメリカの大土地所有制とその農業近代化への影響を理解する。 - 例えば、ブラジルのアマゾン川流域の環境保全の取組を理解する。また、ブラジルと日本との経済的結び付きについて、時系列的に理解する。 〔世界の諸地域、オセアニア〕 - 例えば、オーストラリアの民族政策について歴史的背景を踏まえて説明できる。 - 例えば、オーストラリアの貿易相手国の変遷について、歴史的背景を踏まえて説明できる。 〔我が国の自然環境の特色と自然災害〕 - 日本の自然環境の特色を踏まえ、様々な自然災害について、主な原因、対応、対策、課題について説明できる。 〔我が国の産業の発展〕 - 日本の産業構造の変化と課題について、歴史的経緯を踏まえて説明できる。 〔我が国の人口問題〕 - 日本は少子高齢化の進展により、様々な課題が発生していることを説明できる。 〔我が国の抱える諸課題〕 - 我が国が抱える地理的な諸課題を探究し、解決の方向性や将来の国土の在り方を、1～2の事例を挙げて説明できる。